

利賀っ子だより



R3. 9. 21

○ 他と関わりながら、自分で考え、判断し、行動する子供

今年度の重点目標「他と関わりながら、自分で考え、判断し、行動する子供」を目指して日々教育活動を重ねています。うれしい子供たちの姿がありましたので紹介します。

整頓された棚



～ 遊び道具の片付け ～

プレイルームの掃除を担当している子供たちが、遊び道具を収納する棚が乱雑になっていることに気付きました。気付くたびに片付けていたのですが、そのうち、使った人が整頓しやすくなっていないのではないかと考えました。そして、ケンステップをフック磁石に引っ掛けて吊り下げる、バドミントンラケットは使うたびにケースにしまうのではなく、まとめて箱に入れる、どこに何をしまうのかを決めて、棚に明示するなど少しずつ、使いやすいように、

片付けやすいように整えていきました。みんなに整頓するよう呼びかける表示もつくりました。自分たちで考えて、実行している姿がうれしかったです。

もちろん、その後は、いつも棚が整然と保たれています。

～ 栽培活動での収穫物 ～

学校の畑で育てていた白爵カボチャ、ゴーヤ、ヘチマの収穫をしました。教員は、調理の予定がある白爵カボチャ以外は、子供たちで分けて持ち帰ることにしようかと考えておりました。しかし、子供たちと相談の場を設けたところ、「持ち帰りたい。」「ゴーヤの味は、苦手だから遠慮する。」「留学センターに持って帰りたい。」「ヘチマは、たわしにしてみたい。」など自分の思いを口々に語っていました。そんな中、「せっかくみんなで育てたから、給食に入れてもらってみんなで食べたい。」とEさん。この意見に子供たちの心がずっと動きました。みんなの意見も聞きながら、よりよい方法を考える姿がうれしかったです。

栄養教諭、調理員さんが子供たちの思いをくみ取り、さっそく、献立をアレンジしてゴーヤを給食の食材として使ってくださることになりました。子供たちの思いに寄り添った対応をうれしく思いました。



これからも一人一人の思いに耳を傾け、どうしたいのか子供たちに問いかけていくことを大切にしていきたいと感じたできごとでした。 (高田 公美)